

# 教科「国語」シラバス

## 1. 学習の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 国語  (科目) 国語演習	2	高2《文系選択必修》  ※習熟度別に3クラスに分割し、授業を行う。本科目及び必修古典探究の定期考査の成績等をもとに、学期ごとにクラスを組み替え直す。	『三訂版 プログレス古文総演習 標準編』 いいずな書店 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』 桐原書店 『Key&Point 古文単語330 三訂版』 いいずな書店 『漢文学習必携 三訂増補版』 京都書房 『新訂 国語図説 五訂版』 京都書房
学習の到達目標			<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題演習形式での学習を通して、古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。習熟度に応じたクラス別の授業により、文法や敬語の知識をはじめとする読解スキルを伸ばす。【知】</li> <li>・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。古文や漢文を読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めることができる。【思】</li> <li>・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。【主】</li> </ul>
評価の観点			<p>《知識・技能》 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な知識・技能を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにし、我が国の言語文化に対する理解を深めている。</p> <p>《思考・判断・表現》 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。</p> <p>《主体的に学習に取り組む態度》 言葉を通して積極的に他者や社会に関わったり、ものの見方、感じ方、考え方を深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、古典に親しむことで自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深めようとしている。</p>

### 【定期考査における観点別評価について】

年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考・判断・表現》《主体的に学習に取り組む態度》の3観点における評価を行い、点数化し、評定算出の基本資料とする。

### 【点数化が難しい科目や課題について】

- A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100%
- B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………80%
- C：「努力を要する」状況と判断されるもの……………60%
- D：未提出、未実施……………0%

## 2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	①古文「軍記物語」  ②古文「随筆」  ③古文単語試験 第1回～第5回	文語助動詞の種類と用法を理解する。 軍記物語の文体の特徴について理解する。 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。  文語助詞の種類と用法を理解する。 随筆を読み、時代背景を知り、人間、社会などに対する作者の思想や感情を読み取る。 文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。
1 学期 期末 考査 まで	①古文「説話」  ②漢文「思想」  ③古文単語試験 第6回～第8回	文語助動詞・助詞等の種類と用法の理解を確認する。 説話のおもしろさを味わい、古人のものの見方、感じ方、考え方について認識を深める。 作品の内容を、構成や展開に即して的確にとらえる。  漢文の訓読のきまり、「否定」「使役」「受身」「疑問・反語」などの主要な句法を確認する。 中国古代の思想家の、人間・社会・自然などに対する様々な考え方や感情を的確に読み取り、自らのものの見方、感じ方を豊かにする。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。
2 学期 中間 考査 まで	①古文「日記」  ②漢文「史話」  ③古文単語試験 第9回～第11回	敬語表現について理解する。 日記文学の特徴、背景を理解し、我が国の文化史、文学史上の位置を把握する。 作品に表れた人間・社会・自然などに対する漢文を読み慣れることによって、文章の構成や展開を正しく理解する。 史伝の背景を理解し、漢文の世界に親しむ。	上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。

2 学 期 期 末 考 査 ま で	<p>①古文「歌物語」</p> <p>②古文「評論」</p>	<p>敬語表現の理解を深める。 話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 歌物語における和歌の役割を理解する。 和歌の修辞技巧を理解する。</p> <p>和歌・俳諧に関する評論を読み、文章の構成や展開を的確に捉え、作者の思想を読み取る。 詩歌の言葉の働きや本質などについて学ぶ。 和歌に表現される「言葉」と「心」の関係性について、考えを深める。</p>	<p>上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。</p>
3 学 期 期 末 考 査 ま で	<p>①漢文「漢詩」</p> <p>②古文「隨筆」（近世の作品）</p> <p>③古文単語試験 第17回～第21回</p>	<p>漢詩のきまり（詩形・押韻・構成・対句）などについて理解する。 唐詩を読み味わい、中国古典文学への関心を高める。 中国の自然や人間の心理が詩にどのように詠まれているかを考える。</p> <p>近世の言葉遣いや文法に留意しながら、文章の内容を構成や展開に即して的確に捉える。 時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深める。 近世文学の流れを理解し、作品に表れた作者のものの見方、感じ方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げ深める。</p>	<p>上記教材に加え、各習熟度別クラスの理解度に応じて、適宜補助教材（プリント）を使用する。</p>

【成績評価の概要について】
<p>(1) 学期における評価の対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間考査・期末考査：100点満点（年間5回実施）</li> <li>・ 授業内古文単語テスト：各回20点満点（学期に8回程度実施）</li> <li>・ 授業態度、課題への取り組み</li> </ul> <p>(2) 学期評定の算出方法</p> <p>中間考査・期末考査・授業内単語テストにより《知識・技能》を、中間考査・期末考査・提出課題等により《思考・判断・表現》を、授業への取り組み姿勢・授業内小テスト・提出物等により《主体的に学習に取り組む態度》を評価する。定期考査と平常点の割合は4：1程度。</p> <p>(3) 年度末評定の算出方法</p> <p>定期考査・授業内単語テスト等により《知識・技能》を、定期考査・提出課題等により《思考・判断・表現》を、授業への取り組み姿勢・授業内小テスト・提出物等により《主体的に学習に取り組む態度》を評価する。定期考査と平常点の割合は4：1程度。</p>